

12/Sun
/15

現社会情勢の諸課題と対峙するための Museumの使命

ICOMのMuseum新定義をはじめ、70年ぶりの博物館法改正等、Museumを取り巻く環境は大きく変容している。JMMA第29回大会（2024）は「ミュージアムのこれまで、いま、これから」JMMAが歩んだ30年。我々は何を果たしてきたか」のテーマで開催され、また当学会では学会創設期から現在までMuseumを取り巻く諸課題について議論してきた経緯もある。当諸課題は総合的な学習の時間導入、行財政改革、指定管理者制度導入、公的機関の所管部所移行、学芸員問題等々正に多様である。また諸外国を含めた現在の社会情勢を地球規模で検証していくと諸開発に起因する環境問題は、もはや地域課題の領域を越えて地球環境そのものへの重大な課題と位置づけられる。これらの背景の中Museumに期待される事象は非常に多岐に渡り、学術研究の分野からのシンクタンク機能はもとより、学び探求の領域においても重要な使命を有している。

当研究部会ではMuseum研究者、大学研究者、学校教員、NPO等市民団体を中心にテーマに即した基調講演とパネルディスカッションを行い、参加者間で議論する場とする。

日 時 2024年12月15日（日） 12時30分～16時30分

参加者 学会員 非学会員等（定員40名）

会 場 科学技術館 第3会議室

※建物に入り、左のエレベーターで6階にお越しください

プログラム

12:30～12:40	研究部会趣旨説明 新 和宏(JMMA理事・同コミュニケーション・マネジメント研究部会長)
12:40～13:40	研究発表「自然史博物館ならではの社会的使命」 奥野 淳児氏（千葉県立中央博物館分館海の博物館 主任上席研究員） 専門：動物分類学（主に十脚甲殻類）、博物館学、海洋教育
13:40～14:00	ケーススタディー① 「最新デジタル技術を駆使してMUSEUMが展開する新たな学びと探究の世界」 芝原 暁彦氏（地球科学可視化技術研究所長・福井県立大学客員教授） 専門：古生物学、古環境学
14:00～14:20	ケーススタディー② 「海の学びと探究Programの展開，Museumに期待すること」 浪崎 直子氏（フリーランス・日本海洋教育学会副会長） 専門：海洋教育，サンゴ礁学
14:30～16:30	集団討論「現社会情勢の諸課題と対峙するためのMuseumの使命」 ・ファシリテーター：新 和宏 ・奥野 淳児氏 芝原 暁彦氏 浪崎 直子氏

参加お申込み

【フォームでの申込】 <https://www.jmma-net.org/research> のページ からお申込みください。
（研究会名は「12/15コミュニケーション研究部会」を選択してください）

【メールでの申込】 件名を「12/15 コミュニケーション研究部会」参加申込」として、
参加者名・所属・連絡先（電話・E-mail）を明記のうえ、
kanri@jmma-net.org までお申込みください。